臺灣昌新報夕刊
（第三種郵便物認可）（原稿郵送特權）（明治卅一年五月九日第二種郵便物認可）
十月十八日
夕刊定価一部二錢
編輯兼發行人　佐々木　實
臺北市新起町一丁目廿番地
發行所　臺灣日日新報社
臺北市表町二ノ一番地　基隆支局
臺中市寿町一ノ一番地　臺中支局
臺南市本町一ノ一番地　臺南支局
花蓮港支局
大阪支局
東京支局

靴を丈夫にする
サンエッチ
靴クリーム

理想の大アジア
先づ北支那に實現
國府の抗日、聯共畫餅に歸し
皇軍の威風普し

（天津十七日發同盟）わが察哈爾○○部隊が世界戰史に誇る堂々三百餘里の聖戰は其の偉業殆ど完成した、蛔蜒八百九十キロに亙つて内蒙を繞る北支那邊境を繞く平綏線は完全に皇軍の掌中に收められ、この線こそ南京政府が異例として自慢自矜した軍事的政治的重要線路である、綏遠省全省は殆どれに死命を制せられて外蒙より綏遠を貫き寧夏、甘肅、新疆に到る赤色國際幹線は徹底的に中斷破壊され局より見るに國民政府が抗日作戰として企圖した北支五省の包圍態形は其の重要缺くべからざる北部戰線を完全に崩壞され彼の外戰的作戰は急轉して内戰的作戰に陷られた、斯くして陝西、寧夏はわが略的强壓を戴むるに至り山西省は北東部要路を失ひ太原は危殆に瀕し河北の敵は省外に驅逐され山平野中央部もわが重壓下に儚なき抵抗を試みるのみである、大局既に決したる北支戰局は只管に北支那軍を潰滅の淵へと展開して行くのみである、斯くて今は北支那の一角に北亞細亞經綸の大抱負と讓古民族の再興、新華北の誕生の歴史的課題を全面に押出して力强い歩みを進めつつある

同は更に又東京に在る軍隊に在る軍隊を慰問する事となり次の通りに決つた
二十日　後一、五〇〇名北部隊
二十一日　部六、三〇〇名部隊、歩兵第○○聯隊、騎兵第○○聯隊、野砲兵第○○聯隊、工兵第○○大隊、輜重兵第○○大隊、衛生隊、病院
二十二日　部第四師団、歩兵第○○聯隊、騎兵第○○聯隊、野砲兵第○○聯隊、工兵第○○大隊、輜重兵第○○大隊、衛生隊、病院
二十三日　部第一師団、歩兵第○○聯隊、騎兵第○○聯隊、野砲兵第○○聯隊、工兵第○○大隊、輜重兵第○○大隊、衛生隊、病院
慰問者は左記諸氏の外、各官廳、會社、團體、學校、新聞社、通信社、在郷軍人會、青年團、婦人團體、各種團體等より多數參加の豫定である
慰問者は左記諸氏の外、各官廳、會社、團體、學校、新聞社、通信社、在郷軍人會、青年團、婦人團體、各種團體等より多數參加の豫定である
慰問團長　松木俠（一）、保田治郎、加藤勘平、河村啟、三好德三郎、松岡喜藏、藤瀬政次郎、宮本一學、陳清機、鄭汝芹、中村一遍、藍高川、梅野治太
慰問團長　松木俠（一）、保田治郎、加藤勘平、河村啟、三好德三郎、松岡喜藏、藤瀬政次郎、宮本一學、陳清機、鄭汝芹、中村一遍、藍高川、梅野治太

萬事嚴肅、簡素に
式典のみ執行
招魂祭に就て　秦委員長談

【上海十七日發同盟】敵飛行機は十七日午後八時虹口及び楊樹浦上空に現はれ上海電力會社及び上海紡績附近に燒夷彈を投下したが我が江上艦艇よりの防空砲火に制せられ約十五分で擊退された、上海電力は米人經營であるが租界内の居住地區を目覓けて非人道的な燒夷彈を投下する支那軍の暴戻なる不法行爲には各國人も憤慨してゐる

避病院に落下す
病舍を燒き患者重傷

（上海十八日發同盟）敵飛行機は執拗にも十七日夜より數回に亙つて夜襲し來り虹口、楊樹浦を目掛けて盛んに燒夷彈を投下し居りこれがため上海電力、上海紡績、裏華紡績附近に火災を生じたが更に十八日午前四時十五分又復敵機襲來しその一彈はわが中部小學校裏手の工部局避病院に落下し入院患者數名の重傷者を出し病舍は目下炎燒中である

ダムダム彈を使用
（上海十七日發同盟）○○方面前面の敵は强固なる陣地に據つて頑强な抵抗を續けてゐるがこれが撃に當つてゐる○○部隊の戰傷者は殆んどダムダム彈にやられてゐる事が○○部隊軍醫部での結果判明するに至つた、これが爲め戰傷者等は即刻應急手術を受けつつあるが支那側が戰時國際法を無視してダムダム彈を使用する非人道振りにわが方では痛く憤激してゐる

故城、恩縣にも
『治維會』成立
皮肉、馮治安の故鄕

【濟州十七日發同盟】われ軍の故城、陵縣入城に際し同方面の宣撫工作は極めて順調に進捗し兩地とも治安維持會が成立し人心安定し安定を見るに至つた、殊に故城は北支那要の元帥指揮下の故郷であるが住民の皇軍に寄する信賴の念は非常なものがある

軍用車爆撃

【上海十七日發同盟】○○部隊の一部は十七日午後一時頃民國道路○○哩○○地點に於て敵軍用車數臺を發見するや直ちに之を爆撃し敵軍に多大の損害を與へた

東臺灣駐屯の
軍隊を慰問
民間有志が廿日發

海軍省は目下陸軍省に協力してハワイ諸島をシンガポール、ジブラルタルにも比すべき世界最堅の要塞とする爲計畫を練つてゐるが、日支紛爭に依り各國とも太平洋戰略を再考慮する傾向あるので、大體に於ては從來の計畫通り進捗するものと觀られてゐる

布哇を難攻不落に
米國で裝備を決意
日支事變に刺戟され

【ワシントン十七日發同盟】米政府は日支戰爭に刺戟され太平洋の防備强化に關してゐるが海軍當局者は十五日（ワイ現地二）米國の對日軍事行動に關し次の如く語つた
一、米國は國際法に違反して日本の侵略を援助する意圖は毫もない
二、また一部は國際法に違反して日本の侵略を援助する意圖は毫もない
三、現在布哇方面の防備は決して十分ではない、從つて布哇方面の防備を强化する必要がある
四、米國は日本の侵略を援助するとともに從來通り日本と通商關係を續ける
五、從つて日本の侵略に關し必要的な制裁を實行し得る程度迄防備を强化する意圖は毫もない
六、米國は日本の侵略行爲に對し經濟的壓迫を加へる意圖は毫もない
七、米國は日本の侵略行爲に對し軍事的壓迫を加へる意圖は毫もない
八、米國は日本の侵略行爲に對し經濟的壓迫を加へる意圖は毫もない
九、米國は日本の侵略行爲に對し軍事的壓迫を加へる意圖は毫もない
十、米國は日本の侵略行爲に對し經濟的壓迫を加へる意圖は毫もない

全島司法官會同
けふ督府正廳で開會

今年の招集は例年の如く一切取止め專ら臨時職務を主とし來る二十三日午前十時から四日間總督官邸に於て古莊司令官、中川參謀長、山内總務部長、小濱内務部長、安田勝次郎（台北州）警務部長、安田勝次郎（台北州）警務部長となつて執行されるが總督官邸には從來慣例の如く總督の訓示があり次いで總督の訓示に基いて各部長の訓示があるのであります、此の會同は各官廳の協力を以て國家の總力を擧げて戰ひつゝある今日の時局に際しましては克く此會同の趣旨を體して一層の奮勵努力を要望する次第であります

人事

▲小林總督兵代理（十七日發電）
北より歸る、中國の空爆を視察の上、廿七日基隆着、二十九日又は十一月一日の便船にて歸京の筈
▲國際聯盟事務局次長杉村陽太郎氏（十七日發電）
▲前總督長谷川清氏（總督官邸）（十七日發電）
▲新竹州知事兵代理（新竹州廳）
▲石橋總督兵代理（總督官邸）
▲小川財務局長兵代理（財務局）
▲内務局長兵代理（内務局）
▲警務局長兵代理（警務局）
▲交通局長兵代理（交通局）
▲殖産局長兵代理（殖産局）
▲文教局長兵代理（文教局）
▲法務部長兵代理（法務部）
▲高等法院檢察長兵代理（高等法院）
▲臺北州知事兵代理（臺北州廳）
▲臺北市尹兵代理（臺北市役所）
▲臺北州警務部長兵代理（臺北州廳）
▲臺北州内務部長兵代理（臺北州廳）
▲臺北州財務部長兵代理（臺北州廳）
▲臺北州經濟部長兵代理（臺北州廳）
▲臺北州文教部長兵代理（臺北州廳）
▲臺北州土木部長兵代理（臺北州廳）
▲臺北州殖産部長兵代理（臺北州廳）
▲臺北州交通部長兵代理（臺北州廳

防共線を強化する
我軍の包頭占領
經濟的にも重要地點

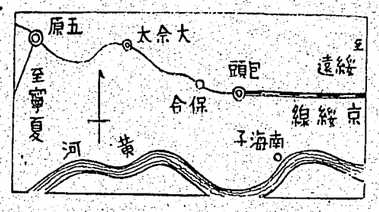
【天津十七日發同盟】我が察哈爾〇〇軍先鋒川村快速隊に依つて十七日午前十時五十分包頭城は脆くも潰えてしまつた、我が軍綏遠の死命を制し傅作義軍は察哈爾の連絡に今や全く屏息し黄河上流を南方に遁竄又は四分五裂に潰走してゐる、包頭は寧夏、蘭州、西安に至る交通路及び外蒙より綏遠を經て新疆方面に通ずる隊商等の重要地點であり將來外蒙占における經濟的中心をなすべき要地である、かくて巨大な防共壁は陰山山脈に沿うて黄河上流に至る國際的防共線を一段と強化したがこの線は自ら外蒙を通じてソ聯に又甘肅、寧夏等支那共産軍の企圖する西北ソヴエット地區及び蘇聯との接觸面を持つてゐるだけに今事變以來最も重要事態として注目すべきである

川村先遣隊保合を占領

【包頭十七日發同盟特派員】十七日午前十時五十分包頭の堅陣を占領した川村部隊は入城後息つく暇もなく西方に潰走する敵を殲滅すべく包頭を進發、五原方面に進擊し途中二十の敵を擊退午後六時四十分保合部落を占領し黄河畔の包頭沃野に日章旗を翻へした

南海子の要地を占領

【包頭十七日發同盟特派員】十七日午前十時五十分包頭に入城の田中部隊は直ちに南進し包頭南方二里の南海子を占領した同地は包頭の外港として五原平野及び寧夏と黄河主流を繋ぐ要衝に當り我軍は黄河上流の舟航權を完全に把握した



包頭に早くも
治安維持會が成立
殘敵掃蕩に保安隊も協力

【包頭十七日發同盟特派員】綏遠より包頭、綏遠間の新車輛を開始する事となつた

裝甲車、客車など
百五十輛を鹵獲
包頭、綏遠間けふから運轉

【包頭十七日發同盟特派員】綏遠より包頭、綏遠間の共同作戰に依り敵を包圍殲滅せんとせる我が部隊は十七日午前一時十分包頭附近を占領綏遠軍及び察哈爾軍の約百五十輛を鹵獲し綏遠の開通

【包頭十七日發同盟特派員】綏遠より包頭に入城した川村部隊は十七日午後四時綏遠軍と共に東門より盛々包頭に入城した、包頭市内は極めて靜穩にして市民は各自に日常業を續けてゐる

勇士の遺骨が凱旋の際
元隊にて告別式
軍と督府の打合で決定

島民の國防獻金
遂に百萬圓突破
軍司令部に寄せたもの

敵軍の上海放棄
案外早く實現か
上海の近狀

内藤順太郎氏談

加療中の林田軍醫少尉
負傷癒えず逝く
無口で謹嚴な青年

佐賀部隊の林田一般軍醫少尉は上海戰線にて去る七日、名譽の重傷を負ひ佐賀縣病院で加療中十七日遂に死亡した、部の公葬が去る十日廿五日午前十時より佐賀市西與賀町の自宅で營まれた、同少尉は本年二十七歳、原籍は鹿兒島縣出水郡高尾野町大字高尾野四百四番地、台北一中を經て

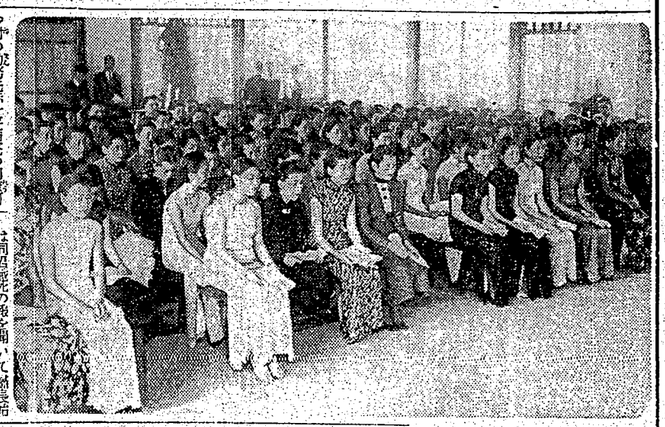
臺北北女子報國團
けふ結團式
獻金及び皇民化運動を申合せ

臺北北女子報國團結團式は國民精神總動員第六日なる十八日午前十時五分から總督府、孔廟、サロンOK、百合、ニルテル、大都會の第一カフエー、大世の各營業主及び男女従業員一百名の擧げて參會に就き午後が開らかれた、來る廿日の開會式には總督夫人始め各界婦人團體代表多數參會の筈

基隆の火力發電所
復舊は來月末着

【基隆十七日發】基隆市八斗子に於ける台湾電力の火力發電所は大震災の際一部を除き殆ど無事に經過し注文中の機械類も十一月末迄に到着する筈になつてゐるが事務關係もあつて復舊は同月末迄に竣成の見込みである

至誠あふれる感謝を
手紙に託して寄す
赫々の武勳をたて戰死した
細川航空兵曹の夫人



少將の職務柄多忙で病院の同僚諸君には謂ゆる「家庭的」な氣分を味はせる事が出來なかつたが、その代りお互ひに「戰友」としての親しみを感じ合つてゐた、殊に看護婦の方々には一方ならぬ世話になつた、今度の事變に際しても、夫人は「主人の留守中、病院の方々に對しては、何卒宜しくお願ひ申します」と云ふ手紙を寄せてゐた

妻の人武もに處此

【東京十八日發同盟】海の荒鷲として勇名を馳せた海軍航空兵曹細川貞雄君が八月十六日の杭州上空の空戰に壯烈な戰死を遂げた事は既報の通りであるが、その手紙がこの程郷里に送られ故山内中鵜の母の許に於ける武人の妻の覺悟として涙を誘ふ感激を與へた

私機去る九月二十二日南支方面に於て戰死、海軍航空兵曹細川貞雄君の戰死に際し、其の妻君から寄せられた手紙は、實に涙なくしては讀めない、其の全文は次の通りである

一筆申上げます、主人の事に就ては、何時かは此の日の來る事と覺悟はして居りましたが、餘りに早く、餘りに突然な出來事に、唯々驚くばかりで、何と申上げてよいか、只々涙に暮れるばかりでございます、主人は幼少の頃より、軍人を志し、海軍兵學校を經て、海軍航空隊の勇士として、數年間、大空を驅け廻つて、國家の爲に盡して參りましたが、今度の事變に際しては、勇躍して、南支の空に、敵機を撃墜すること、數十機、其の勇名は、全國に轟き渡つて居りました、主人は、常に、軍人は、戰場に於て、華々しく戰死を遂げるのが、本望であると、申して居りました、其の主人の本望を達し得たことは、妻として、これ以上の喜びはございません、謹んで、主人の冥福を祈つて居ります、

主人は、幼少の頃より、非常に、負けず嫌ひで、何事に對しても、人に、後れを取ることを、嫌ひ、又、正義感に、富んで居りました、從つて、學校に於ても、常に、上位の成績を、擧げて居りました、

主人は、常に、口癖の樣に、「男子たるもの、一度は、必ず、大空に、雄飛して、國家の爲に、盡したい、」と申して居りました

「コレラ」襲來の虞あり
銃後の衞生に異變なきや
先づ危險極まる油蟲を驅除せよ

臺北州衞生課長　安達敬智

人婦と庭家

ピアニスト歸朝

樞密院議長倉田男爵令孃で去る大正十年ピアニストとして歐米に留學、昨年末二十七歳、麗姿と藝術に輝く令孃ピアニストとして歸朝した倉田白羊氏（本名公平）

跋扈する油蟲

(二)

衞生課の指導に就ては、各家庭に於ける油蟲の驅除法を指示し、時々家人共の驅除法を指示し、時々驅除の督勵して置いたが、動もすれば實行の勝ちを怠り、ともすれば實行の勝ちを怠り、ともすれば實行の勝ちを怠り、とも

國定忠次

(第十回)　長谷川伸作　岩田專太郎畫

大雨の前（七）

なほまでいつてゐるさうだ。伊八「聞いてるのか」

「聞いてるまま親分」

「文藏にも俺はさう思想をいつたんだが、世間の奴が俺ア人にしてやるのに、十手も捨つてこれを、擲ち飛んでこれな。俺が親ア人なら、とうくにお召捕りになる筈だ。俺ある御仁もいつて聞かせたが——この頃こらへ、見當れねど物騒が激人もはひり込むと思つたら、そつら、みんな、十手と捕繩とを懐中に忍ばせてゐる筈さ、いつの間にやりやがつたか、ここの縁の下へ鑓を突こんで、探めやがつた。天井裏も調べやがつた——何かあるもんか縁の下の地には、この家が建つた以來ひと鍬だつて入れたことがねえ、そんな用心なんかからだ。天井裏だつて誰てからこつち、だれ一人へつつた者がねえ、千兩なんて金が隠めてあつて堪るもんか」

「一體ここのどいつがそんな事をしやがるんだか、厭肺〳〵しいにせう」

「何い」

「さうしちやいけねえんですか」

「調べてやがるのは親分の末の七兵衛だ」

「七兵衛ならまだ安心だ。伊八が心配してゐるのは疑の末の七兵衛だ」

「吟ツ——だれ自分に後暗くやがる」

伊八が急いで外へ出てみると、夜だといふのに鍛冶が一人、すたすた向うへ去つてゆく。

「うン、あいつは八州の旦那の木村喜一郎様に取入つてゐる奴だ」

「おやおその七兵衛やりまそうね、親分」

「七兵衛ならう笑ふな、聽に寄るが七兵衛は八州様の下廻をやりまそうと思ふが百年目だ」

「厭形になる十年居ですね、誕生日を」

「んなはねえ」

「さうですかねえ、俺なら七兵衛を」

「吟ツ——だれ自分に後暗くやがる」

伊八が急いで外へ出てみると、夜だといふのに鍛冶が一人、すたすた向うへ去つてゆく。

百花撩亂たる——滿天の星を描く（上）

——大空に未開の詩境を求めて——

水谷八重子

***

臺灣日日新報
昭和十二年十月九日（火曜日）　第一万三千四百九十七號　（一）

決死隊の奮戰

一人當り約廿名
六百の敵を殪す

【上海十七日發本社特電】敎育に亘り頑強に抵抗を續けてゐた○○の陣地も前後二日間に亘る○○部隊の猛攻撃に遂に其一角は我が手に歸したが此の間敵側決死隊大數十名と四十數士の決死的肉彈戰があり、一旦○○陣地を奪はれた時よりの戰鬪中の如きとなり敵軍の死屍六百の多きに上つてゐるが當時の模樣は左の如し

【上海十七日發同盟】廣東軍第○師第○旅團の○○陣地に對するわが海軍航空軍の爆撃は十五日以來益〻熾烈に續行され、十六日も朝來○○陣地の敵軍に對し引續き爆撃を加へつつあるが、特に福州は十五日朝從來にない大規模となり、午前十時半より午後一時半迄の間に實に三回に亘り○○陣地の敵軍に對し猛爆撃を加へ同地は大混亂に陷つたことが傳へられ、我が陸軍は之に乘じ一擧に○○陣地を奪還すべく後從から後從から万全の準備を整へつゝあり

【上海十七日發同盟】十六日午後○時半頃より○○陣地の敵軍に對し○○部隊の決死隊數十名が○○陣地の敵軍に對し○○部隊の決死隊數十名が○○陣地の敵軍に對し○○部隊の決死隊數十名が

傭船料値上りを楯に
米運賃の大巾引上
船會社より突如交渉を申込む
砂糖も共に今後の折衝注目さる

今季の砂糖積取期に於ける內台航路は非常時による各船の減腹不足を補はれてゐるが如く報ぜられて船會社側と一般荷主との間に砂糖運賃協定は二十錢五厘を二割八十五錢に引上げるべく交渉を開始してゐるが移出米に對して一割五分、又他に引上ぐべく大阪商船、玉井商船、辰馬汽船の各社にては十八日午後移出米商の主なる臺二、三號、樫原の四店招集會議を開き交渉の申込をなした、米商側は運賃協定を決してゐるから此引上げ要求を絶對に拒絶する意嚮を以て臨んだが二時間餘に亘る折衝の末一應持ち歸つて考慮することとなり午後三時より台北ホテルに雙方の代表者會合し第二次交渉を開始した、船會社側は

今後の船腹不足はチャーター船により補ふより外なく、チャーター料は昨年秋に比し約二圓高となつてゐるから米價二十錢引上げ位は何ともなき筈にあると強硬な態度で交渉を終へ五時半散會したが、之に對し米商側は原價は據上るが米價は動かし得ないとするが米商側は動搖の色なく、砂糖は據積取引上交渉の際一月一日積取分は旧運賃協定を適用することとな

科学

絶對にはげない 鍍金の發明完成す

ブリユッセル一市民の手で

メッキはハゲる。これは殆どの場合であらう。この缺點を除つて絶對にハゲないメッキの方法が、ベルギーの一科學者によつて發明された。これが實に、ハゲない點に特色があるばかりでなく、ガラスエナメル、石英等の表面に、金、銀、プラチナ、何でも鍍着れて、原子爆の壓力といふから、強力なもので、強い酸を用ゐることが出來るのである。

發明者はブリユッセル市のアレキサンダー氏で、最近同局の特許（特許番號一、〇四七、二五一）をとつた。

氏の方法で鍍金すると、例へば、平凡なガラスの瓶に、この方法で鍍金を施すと、瓶ごと光りを放つ金の瓶に一變するといふから大したものである。

發明の秘訣はガラスの表面上に、ニツケル、コバルト等の卑金屬のごく薄い被膜をつけることが出來たので、更にその上に鍍金屬を被くことを發見つき、それに成功したのだつた。

その發見を示せば、先づ瓶をつけるべき物體、ガラスなり石英なりに加熱して、ニツケルを「酸化的分解法」とも呼つべき方法をもつて被つけする。この方法によつてニツケルは原子にまで破壞され、二分の約四百萬分の一といふ薄さで、ようなくはりついてしまふ。これと同樣の方法で、更にその上に金なりプラチナなりの被膜をつければよいのである。

アキサンダー氏の發表によれば、この方法は鍍金の瓶にも應用へ、硝酸、鹽酸にも侵蝕されず、腐りつくことが絶對にないとのことである。

太陽系から遠ざかる 空の無軌道娘

かのヴイルソン山天文台にてこれを全部の一人、エドウイン・ハツブル博士によつて、最近觀測された「ハツブル膨脹」が近頃、大騒ぎの的になつてゐる。

ハツブル膨脹の發見によれば、この宇宙は無限の空間へ向つて膨脹してゐるといふのである。

この膨脹の助けを借りて、今に星が遠ざかる速度の算出に從事してゐるが、星の速度が、地球から遠ざかる速度の算出に從事してゐるが、星の速度が、地球から遠ざかる速度の算出に從事してゐるが、星の速度が、地球から